

河野裕子短歌賞

歩行を選びとるこの両腕に君を抱くために」に、青春の歌は広島県立広島高、青山ゆりえさん(18)の「関節に機械油をさすようなあなたに、ずれたいたわりが好き」に決まった。

家族の歌に新設された「育みの短歌賞」には津市の教員、田中亜紀子さん(44)の「水たまり幾百幾千飛び込んで幼子どこかへ行ってしまえり」が選ばれた。優れた作品を多数投稿した学校をたたえる最優秀校賞は青森県三沢市立堀口中学校に贈られる。

河野さんは京都女子大学在学中の昭和44年、「桜花の記憶」で角川短歌賞を受賞し、デビュー。生活実感を大切に家族や恋を詠み続け、宮中歌会始の選者も務めるなど活躍したが、平成22年8月、乳がんで死去した。

― 11面に選考過程と入賞者一覧

最優秀に尾崎さん

家族や日常の風景を詠み続けた戦後生まれを代表する女性歌人、河野裕子さんを顕彰する第4回「く家族を歌うく河野裕子短歌賞」(産経新聞社主催、京都女子大学共催)の入賞者が18日、発表された。最優秀賞の「河野裕子賞 家族の歌」には、兵庫県宝塚市の元教員、尾崎順子さん(61)の「補聴器とふ貝をつまみて母の手は耳に明るき夜を運びぬ」が選ばれた。表彰式は24日、京都市東山区の京都女子大で行われる。

同賞は3部門で募集し、「家族の歌」に1959首、「恋の歌・愛の歌」に580首、中高生を対象にした「青春の歌」に1万1998首の計1万4537首の投稿があった。

恋の歌・愛の歌の河野裕子賞は静岡市清水区の主婦、西貝里美さん(39)の「人類が二足

補聴器とふ貝をつまみて母の手は

耳に明るき夜を運びぬ